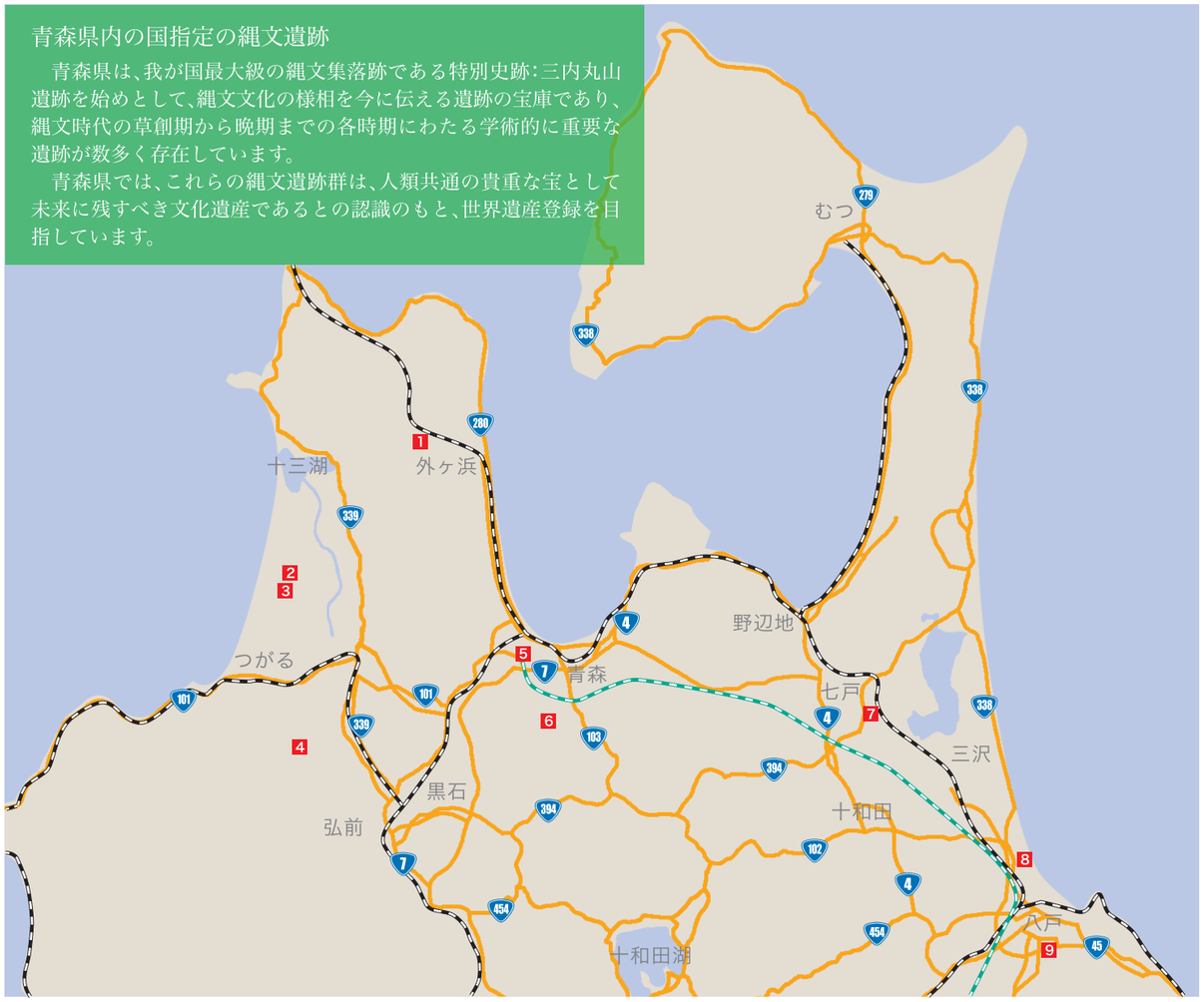
縄文遺跡

青森県内の国指定の縄文遺跡

青森県は、我が国最大級の縄文集落跡である特別史跡：三内丸山遺跡を始めとして、縄文文化の様相を今に伝える遺跡の宝庫であり、縄文時代の草創期から晩期までの各時期にわたる学術的に重要な遺跡が数多く存在しています。

青森県では、これらの縄文遺跡群は、人類共通の貴重な宝として未来に残すべき文化遺産であるとの認識のもと、世界遺産登録を目指しています。



大平山元遺跡 1 （外ヶ浜町）

昭和50・51年（1975・1976）、青森県立郷土館が学術調査を実施し、それまで土器が存在しない段階の石器文化（旧石器時代）と考えられていた神子柴・長者久保文化の石器群（槍先形尖頭器や局部磨製石斧、石刃などが中心）に、無文の土器が伴うことを明らかにしました。これによって、土器の起源論、縄文時代の始まりに一石を投じる重要な遺跡と認識されることとなった遺跡です。

田小屋野貝塚 2 （つがる市）

田小屋野貝塚は、津軽平野に突き出す標高5～15m程度の舌状台地の東南端部に位置し、縄文前期中葉～中期中葉、約6000～4500年ほど前の円筒土器文化期を中心とする遺跡です。周囲に展開する津軽平野は、約7000年前とされる、いわゆる「縄文海進」の際には、古十三湖の汽水域が広がっており、そこから採れたであろうヤマトシジミを中心とする縄文前期の貝塚を伴う集落を形成しています。貝塚は日本海側に少なく、しかも内陸に面した貝塚ということで当時の環境や生業を知る上で貴重な遺跡といえます。

亀ケ岡石器時代遺跡 3 （つがる市）

亀ヶ岡石器時代遺跡は江戸時代から、造形的に優れた土器が出土することが知られ、北海道から北日本を中心とする土器を中心とした物質文化、「亀ヶ岡文化」の名称の由来となっています。弘前藩の記事が記載された『永禄日記（館野越本）』や、滝沢馬琴らの鑑賞会の記録『耽奇漫録』などにも、出土品の記録が残されています。また、出土する土器のすばらしさは外国人も魅了し、出島のオランダ商館を通じ、ヨーロッパ諸国にも流出しています。

【つがる市木造亀ヶ岡考古資料室（つがる市縄文館）】

つがる市縄文館は遮光器土偶の出土で知られる亀ヶ岡遺跡の展示館。その中にある木造亀ヶ岡考古資料室は亀ヶ岡遺跡で出土された土器や石器などを始め、様々な考古資料が展示している施設。中には漆器やガラス球などの細工物もあり、その技術の高さに驚かされます。

【つがる市縄文住居展示資料館（カルコ）】

つがる市内の遺跡からの出土品などを展示しています。

【つがる市森田歴史民俗資料館】

円筒土器文化の代表的遺跡である石神遺跡（つがる市）の出土品のほか、つがる市内の遺跡から出土した縄文時代晩期の亀ヶ岡文化の資料を展示しています。

大森勝山遺跡 4 （弘前市）

大森勝山遺跡は、昭和34年から3か年行われた開発に伴う緊急調査により、当時国内最大とされた直径約13mの大型竪穴建物跡や環状列石が発見されたことから、昭和36年に公有化され、遺跡の保護が図られました。半世紀後の平成18年から3か年行われた再調査では、環状列石の構築時期が明確となり、また、環状列石の周囲に石組炉や埋設土器、捨て場などの遺構が作られていることがわかりました。これらの調査成果に基づき、大森勝山遺跡は平成24年9月に国の史跡に指定されています。

【裾野地区体育文化交流センター】

弘前市裾野地区の歴史を大森勝山遺跡などの出土品やパネル展示で紹介しています。

【藤田記念庭園考古館】

弘前市内の遺跡から出土した旧石器時代から江戸時代までの土器や石器など約500点を展示しています。1階は十腰内遺跡や大森勝山遺跡などの縄文時代の遺跡、2階は弥生時代の砂沢遺跡から江戸時代の弘前城までの遺跡を紹介しています。

三内丸山遺跡 5 （青森市）

三内丸山遺跡は、江戸時代から知られている有名な遺跡です。1992年から始まった発掘調査では、縄文時代前期～中期（約5,900～4,200年前）の大規模な集落跡が見つかりました。

たくさんの竪穴建物跡や掘立柱建物跡、盛土、大人や子供の墓などのほか、多量の土器や石器、貴重な木製品、骨角製品などが出土しました。

青森県は遺跡の重要性から、1994年に遺跡の保存を決定しました。

【三内丸山遺跡 縄文時遊館】

三内丸山遺跡から出土した重要文化財約500点を含む総数約1700点の遺物を展示しています。入口のタイムトンネルを抜けると左手に「縄文のこころ」コーナーがあります。ここでは、重要文化財の大型板状土偶をはじめ、「ヒスイ製太珠」「クリの大型木柱」などを展示しています。

【青森県立郷土館】

常設展示室の一つ、考古展示室では、遮光器土偶（レプリカ：亀ヶ岡遺跡）など、青森県の旧石器時代～弥生時代に関する出土遺物を、数多く展示しています。

小牧野遺跡 6 （青森市）

土地造成と特異な配石で構築された後期前半の大規模な環状列石を主体とする遺跡です。当時の精神生活や社会構造、墓制等を明らかにするとともに、土地の造成や多量な大型石の運搬・設置など、土木工事の実態を知る上で重要な遺跡です。

【青森市森林博物館　小牧野遺跡展示室】

小牧野遺跡の出土品のほか、環状列石を復元したものやジオラマなどを展示。また、同じ縄文後期の山野峠遺跡（青森市）の石棺墓を復元展示しています。

二ツ森貝塚 7 （七戸町）

東北地方太平洋岸、小川原湖西岸に形成された前期から中期にかけての大規模な貝塚を伴う集落遺跡です。貝塚は東西に2か所形成され、竪穴建物、貯蔵穴、墓も配置されています。この時期の貝塚として東北地方有数の規模を誇り、環境や生業、集落構造を考える上で重要です。

【二ツ森貝塚史跡公園】

復元された2棟の「竪穴住居」、植物環境「縄文の森」、散策路、見晴らし台などが整備されています。

【七戸中央公民館】

2階ホールに、国史跡「二ツ森貝塚」の出土遺物の一部（土器・石器・骨角器・貝殻など）を常設展示しています。

【七戸町文化交流センター】

歴史民俗資料館として多数の文化財資料を展示しています。国史跡「二ツ森貝塚」と国史跡「七戸城跡」の出土遺物をはじめ、縄文時代から近代にかけて七戸町内の貴重な資料を学習できます。見学は団体のみの受付となります。

長七谷地貝塚 8 （八戸市）

昭和33年（1958）に慶応義塾大学の江坂輝彌らにより発掘調査が行われています。この調査で出土した資料は、土器が縄文時代早期後半の編年標識、魚骨・貝類は当時の食生活の解明、骨角器は漁労具等の研究資料として取り扱われ、全国的にこの遺跡が知られるようになりました。貝塚からは、大量の貝殻・魚骨が出土し、鳥・哺乳類が非常に少なく、銛頭・刺突具・骨針・組合せ式釣り針・石錘などが認められることから、当時の人々は漁労を中心とした生活を営んでいたものと思われます。昭和56年、長七谷地貝塚は縄文時代早期の漁労を中心とする生業・食生活や集落構成を知る上で貴重な遺跡として、国の史跡に指定されました。

【八戸市博物館】

展示は、"よみがえる歴史・ひらけゆく未来"をメインテーマに、考古・歴史・民俗・無形資料の4つの展示室から構成され、各室ともテーマごとに八戸の歴史を体系的に紹介しています。

是川石器時代遺跡 9 （八戸市）

是川石器時代遺跡は、中居・一王寺・堀田の三つの遺跡からなり、新井田川左岸の段丘上に立地します。前期から晩期の集落遺跡群で、日本考古学史に残る数々の発見がありました。一王寺遺跡では、細長いバケツ形の土器が大量にみつかり、「円筒土器」の名が付けられ、東北地方北部の前・中期の標識名になりました。堀田遺跡は土器とともに宋銭が出土し、縄文文化の終末年代をめぐる論争の舞台となりました。中居遺跡では、漆器をはじめ様々な植物質遺物が出土したことで、全国的に知られています。本遺跡は、長期的な集落の変遷や漆芸技術の系譜を考える上で重要な遺跡です。

【是川縄文館】

是川縄文館は、是川遺跡や風張1遺跡などを通して、八戸の優れた縄文文化を発信する施設・機関として、平成23年7月10日に開館しました。

常設展示室は、是川中居・風張1遺跡の発掘成果及び重要文化財となっている出土品を中心に展示し、縄文人の芸術性に触れる「縄文の美」、是川遺跡の調査研究成果を通して学習する「縄文の謎」、国宝の合掌土偶を展示する「国宝展示室」などで構成されています。企画展示室では、是川遺跡や縄文に関わる多様なテーマ、埋蔵文化財に関わるテーマの特別展・企画展を実施しています。